



地震を乗り越え、職人が守り続ける伝統の技

震度7の激震が再び熊本を襲った。
被災から立ち上がり、職人はふるさとの土に新たな命を吹き込む。
守り続ける伝統の技、人々のくらしがまた始まる。

くまもとPRIDE 高田焼(八代市・氷川町)

半乾きの素地に文様を彫り込み、白土で埋める。「象嵌(ぞうがん)」と呼ばれる高田焼の技法だ。7月28日、八代市の^{あがの}上野窯13代目・上野浩平さんの工房も被災した。多くの作品を失った上野さんが、再び土と向き合ったのは地震3週間後。「後の世代に『残る仕事』をするのが私の役割」。その言葉に、地震でも揺るがない伝統への矜持が見えた。

特集「一日も早い復旧・復興」へ

県からのたよりをスマホでも



©2010熊本県くまモン